

病予防と肥満対策」と題して、ちよつとした生活習慣に気をつけておけば、肥満を防ぎ糖尿病を予防することができる。このことについて講演をいただきました。

講演の五番目は、熊本大学政策創造研究教育センター教授の都竹茂樹先生から「糖尿病にならないための運動習慣」と題して、糖尿病の予防として筋力トレーニングの効果が注目されていることから、一日一〇分、器具を使わず、自宅で実施できる筋トレの方法とその効果について講演をいただきました。

講演の六番目は、国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長の西川武志先生から「糖尿病の新しい薬物療法」と題して、最近登場した新薬では糖尿病治療の代表的な副作用である低血糖や体重増加が起こりにくいといわれていることから、今回、これらの新薬について講演をいただきました。

講演終了後の総合討論・質疑応答は、あらかじめ寄せられた質問と会場からの質問に講演者が答える形で行いました。約二四〇人の来場者があり、内容を、十二月十四日の熊本日日新聞紙面に掲載しました。

第六十回は、二月十二日(日)にホテルニューオータニ熊本において、「健やかな子どもを育てる」と題して開催しました。

講演では、司会を肥後医育振興会常任理事の遠藤文夫が務め、座長を熊本大学

大学院生命科学研究所小児科学分野准教授の中村公俊先生にお願いしました。

子どもを取り巻く健康問題や環境について、発達障害、予防接種、アレルギー、それぞれの分野から専門家のお話を伺いました。子どもがのびのびと健やかに成長するために、私たち大人が知っておきたいことを、様々な角度から解説していただきました。

最初の講演は、久留米大学医学部小児科主任教授の山下裕史朗先生から「発達障害の子どもをうまく育てるコツ」と題して、それぞれの子どもの特性を理解し、特性に応じた支援を家庭や学校で行うことで、その子の良さが伸びていくことなどについて講演をいただきました。

講演の二番目は、国立病院機構熊本医療センター小児科医長の緒方美佳先生から「どうする?こどものアレルギー」と題して、食物アレルギーの基礎知識と昨年改訂されたガイドラインの基本方針でもある「食べさせない」ではなく「食べさせるためには?」などについて講演をいただきました。

講演の三番目は、熊本地域医療センター/熊本県予防接種センター小児科部長の柳井雅明先生から「ワクチンによる小児の重症感染症予防」と題して、日本においてもワクチンは本当に必要なのか?という疑問に対して、感染症で苦しむ多くの子どもたちを経験した小児科医の立場から講演をいただきました。

講演終了後の質疑応答は、あらかじめ寄せられた質問に講演者が答える形で行いました。約一四〇人の来場者があり、内容を、三月十九日の熊本日日新聞紙面に掲載しました。

平成二十八年度は、熊本地震発生に伴い、十二月十一日(日)に熊本日日新聞社本館ホールにおいて、「災害医療の実態と被災者の心のケア」と題して臨時の肥後医育塾を開催しました。熊本日日新聞社の熊本地震復興再生会議連続シンポジウムと共同で開催しました。

講演及びパネルディスカッションでは、コーディネーターを熊本日日新聞社編集局次長の花木 弘氏にお願いしました。

私たちふるさと熊本は、今回の地震によつて未曾有の被害を受けました。広範囲に及ぶ被害にどう立ち向かうべきかを検討する「熊本地震復興再生会議」を立ち上げ、連続シンポジウムを企画しました。熊本日日新聞社と共同で、「災害医療」に焦点を当て、関係者による報告や意見交換により今後の方向性などを探りました。

講演は、上益城郡医師会会長/東熊本病院院長の永田壮一先生から「激震2回・被災地の医療現場は」と題して、熊本赤十字血液センター所長の井 清司先生から「熊本県の災害医療準備体制と熊本地震」と題して、阿蘇保健所保健予防課主幹の川口 薫氏から「震災時の保健師の活動と課題」と題して、それぞれ

熊本地震被災後の取り組みや課題等について講演をいただきました。

講演終了後のパネルディスカッションは、「被災者の心のケア」予防と対処法」と題して、熊本県精神保健福祉センター次長の矢田部裕介氏、熊本市南区役所保健子ども課技術主幹兼主査の宮崎真理子氏、熊本市立白川小学校養護教諭の澤 栄美氏による討論や会場からの質問に対する質疑応答を行いました。約二〇〇人の来場者があり、内容を、一月十一日の熊本日日新聞紙面に掲載しました。

総合生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療・学術記事の執筆・監修

副理事長 山本 哲郎

平成二十八年度も、熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」(タブロイド判十六頁三十五万部発行)の第一土曜日の十面と十一面の見開き二頁について執筆・監修を行い、健康・医学・医療の学術情報を県民に提供しました。内容としては、「元気の処方箋」(最新の医学医療記事)と「子育て応援クリニック」(小児科関連の医学医療記事)(十面)は、読者からの希望が多いため、このこと、毎号の掲載といたしました。「慈愛の心・医心伝心」(女性医療人によるリレーエッセイ)(十一面)を八回(五、六、八、九、十一、十二、二、三月)掲